

事業再評価調書（2回目以降）

| | | | |
|----------------|--------------------|--|--|
| 事業種別 事業名 | | 住区基幹公園整備 御幣島中央公園整備事業 | |
| 担 当 | | 建設局 公園緑化部 調整課 （連絡先：06-6469-3822） | |
| 1 再評価理由 | | 事業再評価した年度から5年間が経過後の年度で継続中のもの | |
| 2 事業概要 | ①所在地 図1参照 | 西淀川区御幣島4丁目地内 | |
| | ②事業目的 | 淀川から分岐する神崎川沿いにあるおいのある都市景観を形成し、主として近隣に居住する方々の利用に供することを目的とした近隣公園として都市計画決定し、スポーツレクリエーションの場や災害時の避難場所としての機能を有するとともに、緑豊かな中で地域コミュニティ活動に資するなど生活環境の向上に寄与するものである。 | |
| | ③事業内容 | 近隣公園として整備 都市計画決定面積 2.3ha 事業認可面積 2.3ha 公園整備面積 2.3ha | |
| 3 事業の必要性の視点 | ①事業を取り巻く社会経済情勢等の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 本市の都市公園整備状況は、他の政令市に比べ少ない状態である。 近年の厳しい財政状況の中、公園事業費は年々縮小しており、予算確保がますます難しくなっている。 局運営方針の「都市の魅力と成長」においても、新たな緑を創出するとともに全ての緑を良好に保全・活用していくことで、うるおいのある良好な都市環境の形成を図り、都市の魅力と成長につなげることにしている。 | |
| | ②定量的効果の具体的な内容 | <p>[効果項目]</p> <p>①直接利用価値（直接的に公園を利用することによって生じる価値） 子供たちの安全な遊び場の提供、レクリエーションの場の提供など</p> <p>②間接利用価値（間接的に公園を利用することによって生じる価値） 緑地の提供、災害・延焼防止の役割の提供など</p> <p>[受益者]</p> <p>半径1.5kmを圏内とする住民</p> | |
| | ③費用便益分析 図2参照 | <p>[算出方法]</p> <p>「改訂第2版 小規模公園費用対効果分析手法マニュアル」国土交通省</p> <p>[評価対象面積]</p> <p>約2.3ha</p> <p>[分析結果]</p> <p>費用便益比 $B/C = 2.66$ （総便益B：79.5億円、総費用C：29.9億円）</p> | |
| | ④定性的効果の具体的な内容 | <p>[効果項目]</p> <p>1) レクリエーション空間の提供 ・子供たちの安全な遊び場の提供、レクリエーションの場の提供など</p> <p>2) 都市景観の向上、都市環境の維持・改善 ・緑地の提供、うるおいのある町並みの提供など</p> <p>3) 震災等災害時の有効機能 ・災害・延焼防止の役割の提供、一時的な避難場所の提供など</p> <p>[受益者]</p> <p>・半径1.5kmを圏内とする住民</p> | |
| | ⑤事業の必要性の評価 | 本市の都市公園整備状況は、他の政令市に比べて少ない状態であり、また、市政モニターアンケートでは、緑に不満・やや不満と答えた市民が55.1%にのぼってなど、依然として公園は不足している。 | |

| | 事業開始時点 (平成10年4月) | 前回評価時点 (平成24年9月) | 今回評価時点 (平成29年6月) | |
|-------------------|---|--|--|--|
| 4 事業の実現見通しの視点 | ①経過及び完了予定 | 都市計画決定 昭和49年度 事業採択年度 平成10年度 着工予定年度 平成13年度 完成予定年度 平成15年度 | 都市計画決定 昭和49年度 事業採択年度 平成10年度 着工予定年度 未定 完成予定年度 未定 | 都市計画決定 昭和49年度 事業採択年度 平成10年度 着工予定年度 平成30年度 完成予定年度 平成32年度 |
| | ②事業規模 | 公園整備面積 約2.3ha | 公園整備面積 約2.3ha | 公園整備面積 約2.3ha |
| | うち完了分 | 用地取得面積 0.6ha 公園整備 0ha | 用地取得面積 約2.3ha 公園整備 0ha | 用地取得面積 約2.3ha 公園整備 0ha |
| | 進捗率 図3参照 | 用地取得率 27.6% 公園整備率 0% | 用地取得率 100% 公園整備率 0% | 用地取得率 100% 公園整備率 0% |
| | ③総事業費 | 17億円 | 17億円 | 15億円 |
| | うち既投資額 | 3億円 | 10億円 | 10億円 |
| | 進捗率 図4参照 | 17.60% | 58.80% | 66.60% |
| | ④事業内容の変更状況とその要因 | 本市の財政状況を踏まえ、完成予定年度を精査した。整備水準の見直しを行ったため、総事業費が減少した。 | | |
| | ⑤未着工あるいは事業が長期化している理由 | 用地はすべて取得しているが、本市の厳しい財政状況により、施設整備に着手することが困難となっている。 | | |
| | ⑥コスト縮減や代替案立案の可能性 | 二次製品（縁石等）の積極的な利用等による施設整備費を低減と工期の短縮を図る。 | | |
| ⑦事業の実現見通しの評価 | 本年度は測量調査などを行い、予算の範囲内で着実な事業を進め、平成32年度の事業完了を目指す。 | | 評価 B | |
| 5 事業の優先度の視点の評価 | <p>[重点化の考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点化の位置づけはない <p>[事業が遅れることによる影響]</p> <p>市民サービスとして、緑豊かなオープンスペースの提供ができない。また、避難施設の確保及び防災空間の整備などの防災機能の発揮が遅れる。 (災害時の避難場所・延焼防止・洪水調整など)</p> | | 評価 B | |
| 6 特記事項 | | | | |
| 7 対応方針(案) | 「事業継続（評価B）」 | | | |
| (理由) | <p>本公園は市街化が進んだ本市の近隣公園として、主に近隣に居住する方々の利用に供することを目的としており、貴重なオープンスペースを提供すると共にレクリエーション、都市環境の向上、防災機能の向上等の効果が期待され、このような地域における本公園の重要性は高い。また、市全体で見ても、本市の都市公園整備状況は、他の政令市に比べて少ない状態であり、依然として公園が不足している。当公園については、現状、広場として地域で既に利活用し、広場機能の一部を発現しているが、公園利用者の利便性の向上及び維持管理上、必要である最低限の整備を実施し、事業を完了させて供用していく必要がある。そのため、コスト縮減を図りながら予算の範囲内で着実に事業実施に努め、平成32年度の事業完成を目指すことから「事業継続（評価B）」とする。</p> | | | |
| 8 今後の取組方針(案) | 引き続き地元や区などと協議・調整を行い、コスト縮減を図りながら、予算の範囲内で着実に事業実施を進める。 | | | |